

立 秋

佐藤志満歌集



林池
志満
歌集

現代短歌全集
8

立
秋

佐藤志満歌集

短歌新聞社

立 秋

現代短歌全集 8

昭和63年 6 月10日 初版発行

昭和63年 8 月22日 4 刷発行

著 者 佐 藤 志 満

発行人 石 黒 清 介

印 刷 協 同 印 刷 K K

発行所 短 歌 新 聞 社

〒166 東京都杉並区高円寺南4-43-9

振替口座 東京 5-21683

電 話 03 (312) 9185

1092-000399-4362

定価 1800円

目次

淡雪	赤壁	残年日々	鶴・天草	黒部溪谷	川湯	雉鳩	海村	花の香	白石川	沈丁華	桂林	匹見峽
----	----	------	------	------	----	----	----	-----	-----	-----	----	-----

二四	二〇	一五	一〇	〇五	〇三	〇二	〇一	〇〇	九九	九八	九七	九六
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

立
秋

略
歴

あ
と
が
き

三
六

二
六

一
六

立

秋

匹見峽

入りてゆく晩秋の峽ひとところ青きなだりは
蒟蒻の畑

雑木々の黄葉散りくる山葵田の谷急なれば水
をとどめず

古きよりここに山葵を培ひて土なき谷はただ
に石を積む

来るたびにこの峽にあふ寒時雨三桮の葉は色
づかんとす

ゆたけくも道に散りしく山茶花は旧知のごと
しこの峽にして

かの日見し狐はいづこに棲むならん
峽の草原
杉生となれる

ふるさとの墓地の向うに二千戸の団地となら
ん山削らるる
(北九州)

椿咲く山の篁竹の子を掘りつつをればからだ
冷えくる

何かせずに居られぬ性は母方か癌病み瘦せて
いとこ働く

その落葉道路に散るをうとまれて樟の古木は
切られしといふ

玉葱の苗畑の草抜きながらここに育ちし母を
歎かふ

夕ぐれの庭にほのかに辛夷咲く君が家にて亡
骸に会ふ

(悼 高橋加寿男氏)

疾風に百日紅のゆるる枝まだ咲ききらぬ蕾を
こぼす

台風は三陸沖に近づきて泰山木に日の照りか
げる

梅雨あけてつづく暑き日にかくに茗荷の花
の咲く頃となる